

一般入学試験（2期）正答

【英語】

学習困難（Learning Difficulties）	非常に知的水準や知的能力の低い人々を、軽蔑的でなく敬意を払った上でどのように言及するのか。これは彼らの福祉や利益に関心を寄せる人々にとって長年の課題であった。例えば、「moron（愚鈍）」という語は、1910年にH.H.ゴダードによって、まさにそのような配慮にもとづく中立的な専門用語として導入されたことを発見すると驚かされるだろう（もっとも、この語はギリシア語の「愚かな」を意味する語に由来している）。これまで、「idiotcy（白痴）」、「imbecility（痴愚）」、「retardation（精神遅滞）」、「subnormality（精神薄弱）」、「mental deficiency（精神欠陥）」、「mental handicap（精神障害）」といった表現が用いられてきたが、いずれも初めから、あるいは後になって軽蔑的な意味を帯びるようになった。この問題を解決するため、「learning difficulties（学習困難）」という表現が1990年代初頭に広く採用されるようになった。ただし、その起源を正確に特定することは難しい。「moderate learning difficulties（中等度学習困難）」という表現は、1978年のウォーノック報告においてすでに用いられており、それまで使われていた「中等度の教育的精神薄弱」に代わるものとして導入された。しかしながら、ここには重大な混乱が存在する。というのも、イギリスとアメリカではこの表現の意味が異なるからである；イギリスでは、この語は従来の用語をほぼ直接的に置き換えるものとして用いられているのに対し、アメリカでは（この語の導入はより最近のことであるが）、文字どおり、知的能力の障害を伴わない失読症やADHDのような学習上の困難を指す表現として用いられている。また、必要に応じて「severe（重度）」、「moderate（中等度）」、「mild（軽度）」、「specific（特異的）」といった形容語が付加されることも多い。これまでのところ、この表現はイギリスでは比較的うまく定着しているようである。その理由は、おそらくこの語が中立的かつ記述的であり、アメリカで「mental retardation（精神遅滞）」から侮蔑語の「retard」が生じたような仕方でも、容易に侮蔑語へと転化しにくいからであろう。しかし、この表現にもまったく問題がないわけではない。というのも、「learning difficulties」という語を厳密な意味で捉えたと、それはしばしば当該個人にみられる機能不全的行動の一部しか説明していないからである。そのため、この語はやや作作的な婉曲表現のように思われることもある。とはいえ、広く用いられている別の表現である「learning disability（学習障害）」と並んで、現時点では最も適切な用語である。現在の文献の大部分は、理論的問題よりも応用的問題、特に教育に関する問題に重点を置いている。
-----------------------------	--

【専門】大問1.

解離性障害についての説明	心的外傷などが原因で、意識、記憶、同一性、行動などの統合が破綻した状態。耐え難いストレス状況から自分の心を守るために、意識を切り離すパーソナリティの防御反応とされる。 例として、解離性健忘は、外傷的な出来事や強いストレスの関連したことを、突然部分的に忘れてしまうというもので、日常生活や職業に関するものなどの記憶は残ることもあり、短期間のこともあれば長期に及ぶものもある。 離人感とは、自分と外界が距離をおいたように感じ、現実感を失ったりする。 解離性同一性障害、解離性同一症、多重人格と言われるものでは、一人の中に、全く別な人格が存在し、突然入れ替わったり、意識や記憶が連続しておらず、行動パターンも急に異なったりするため、周りも自分もとまどい、適応に困難が生じる。それほど多くはないが、幼児期に耐え難い虐待などを経験することにより、生じると言われている。 解離性遁走（フーグ）は、解離性健忘と関連していることが多いが、突然、関係のないところに行き、失踪、放浪したりする。
コンサルテーションについて、カウンセリングと対比させながら、目的、対象、責任の所在について説明しなさい	コンサルテーションは、異なる領域の専門家の間で行われるもので、コンサルタントは、コンサルティに対して、コンサルティがその専門性を生かしながら、抱えている心理社会的問題に対処する力をつけることを目指して行われる。コンサルテーションで対象にするのは、コンサルティが対応しているケースであり、コンサルティの個人的・人格的なことは対象としない。ケースに対する責任は、コンサルティにある。これに対して、カウンセリングでは、クライアントの抱える問題の解決を目指して、カウンセラーは支援を行う。カウンセリングでは、クライアントの抱える問題やその問題の成り立ちに関連すると思われるクライアントの心理的特徴や環境的状况などが対象となる。クライアントに対する責任は、カウンセラーにある。

【専門】大問2.

B. F. Skinner	アメリカの心理学者であり、オペラント条件づけの研究により「行動分析学」を確立した。スキナー箱を用いた動物実験を通して、強化や罰、消去といった働きかけが、自発的行動の頻度にもたらす影響を実証的に解明し、強化スケジュールの理論などを体系化した。また、徹底的行動主義の立場から、内的過程を分析対象とせず、観察可能な行動のみを分析対象とした。
強化スケジュール	強化スケジュールとは、特定の自発反応に、強化子を付随させる頻度に関するルールである。全ての自発反応に対して毎回必ず強化子を付随させる方略を「全強化」と呼ぶ。これに対して、一部の自発反応のみに強化子を付随させる方略を「間欠強化（部分強化）」と言う。初期段階では全強化の方が学習が速く成立するが、間欠強化の方が自発反応の生起回数は増加しやすく、消去に対する抵抗も強いという特徴がある。
ソーシャルサポート	ソーシャルサポートとは、心身の健康の維持や促進するような機能を持つ社会的な援助を指す。問題解決に役立つような資源や情報の提供をする道具的サポートや、愛情や信頼感を与えたり、悩みごとの相談などを通じて、感情状態の改善・自尊心の向上を促す情緒的サポートなど、サポートの機能によって分類されている。
ジェンダーアイデンティティ	ジェンダーアイデンティティとは、自分自身の性別をどのように認識しているかという、個人の内面的な感覚を指す。出生時に割り当てられた性別と一致する場合もあれば、一致しない場合や、男性・女性のどちらにも限定されない場合もある。性的指向や服装・言葉遣いなどの性表現とは異なる概念であり、本人の自己認識を尊重することが重要である。
ジェノグラム	ジェノグラムとは、数世代にわたる家族構成とその関係を記号や関係線を用いて図式化するものである。家族内の血縁関係や感情的なつながりなどの家族関係、行動パターン、病歴などを示す。
学生相談	学生相談とは、大学などに在籍する学生が、学業、進路、人間関係、心身の不調、生活上の問題などについて相談できる支援活動である。カウンセラーや教職員が学生の話を聴き、問題の整理や解決を援助するとともに、必要に応じて学内外の専門機関と連携する。学生が安心して学び、自立した学生生活を送れるよう支えることを目的とする。

【専門】 大問3

問題1 精神分析療法に該当しない用語を一つ選びなさい。

- 1 抑圧
- 2 治療同盟
- 3 身調べ
- 4 対象a
- 5 鏡映自己対象

問題2 「社会的弱者を特別視せず、そのままの存在として受け止め、地域社会の一員として暮らせるようにする」という概念を意味する言葉を一つ選びなさい。

- 1 ノーマライゼーション
- 2 セーフティネット
- 3 ソーシャルインクルージョン
- 4 ダイバーシティ
- 5 エンパワーメント

問題3 ラッセル（Russell,J.A.）の感情円環モデルは、2次元で説明されている。組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- 1 「快—不快」と「覚醒—睡眠」
- 2 「苦悩—安心」と「快—不快」
- 3 「覚醒—睡眠」と「幸福—悲嘆」
- 4 「幸福—悲嘆」と「苦悩—安心」

問題4 自分と他者の仕事への投入とそれに対する報酬を比較し、不公平だと感じたとき、その不公平感を解消するための行動を意味する理論の名称を一つ選びなさい。

- 1 均衡理論
- 2 平等理論
- 3 期待理論
- 4 衡平理論

問題5 両眼視差は主に何の手がかりとなるか、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 色の恒常性
- 2 動きの予測
- 3 奥行き知覚
- 4 明るさの恒常性
- 5 パターン認識

問題6 2017年に文部科学省が実施した「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」における暴力行為に当てはまるものとして、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 中学生が親を殴った
- 2 学区内の公園で、中学生が故意に遊具を壊した
- 3 高校生が後輩の中学生に対し、金品を持ってくるように命令した
- 4 小学生がバットの素振りをしていたところ、通りかかった教師に当たった
- 5 中学校内で、同じクラスの生徒同士が殴り合いになったが、双方に怪我はなかった

問題7 次の選択肢のなかから不適切なものを一つ選びなさい。

- 1 味覚嫌悪学習はその発見者の名前からガルシア効果と呼ばれることもある
- 2 味覚嫌悪学習の実験から、味覚情報と気分が悪いことは学習されやすいが、味覚情報と電気ショックとの連合学習は生じにくいことがしめされている
- 3 Wolpe, J. は条件づけの原理を応用して系統的脱感作法を開発した
- 4 実験神経症とは、Pavlov, IP.が報告した現象である
- 5 効果の法則とは古典的条件づけを研究していた、Thorndike, EL.が提唱した学習の原理である

問題8 学習に関する内容として、不適切なものをすべて選びなさい。

- 1 Thorndike, E. L.は、問題箱と呼ばれる実験装置を用いて、動物の試行錯誤学習について研究した
- 2 スキル学習では、練習中のある時期にパフォーマンスの向上が停滞する時期があることが知られている
- 3 Köhler, W.はチンパンジーを対象として洞察学習を研究した
- 4 Watson, J. B.はアルバート坊やを対象に、古典的条件づけの一種である恐怖条件づけの研究を行った
- 5 Wolpe, J.は道具的条件づけの理論をもとに、行動療法の一種である系統的脱感作を開発した

問題9 Wundt, W. M. (1832-1920) に関する内容として不適切なものを一つ選びなさい。

- 1 心的過程を要素に分類し、それらの構成について調べるという機能主義を立ち上げた
- 2 1879年にLeipzig大学に世界で初めて公認された心理学講座を開いた
- 3 研究方法として、内観法だけでなく精神物理学測定法や反応時間測定法も採用し、実験法を心理学に定着させた
- 4 国内外の若い研究者を受け入れ、その後世界で活躍する研究者を多数養成した

問題10 Kretschmer, E. についての説明として、適切なものに○、適切でないものに×を付けた場合、選択肢1～4の組み合わせの中から正しいものを1つ選びなさい。

- A 体液と体格の関連
- B 類型論
- C 細長型・筋肉質型・肥満型
- D アメリカの医師

- 1 A ○ B × C × D ×
- 2 A × B ○ C ○ D ×
- 3 A ○ B ○ C ○ D ×
- 4 A × B ○ C ○ D ○